



農業へ、自治体へ活動広がる ITコーディネータ

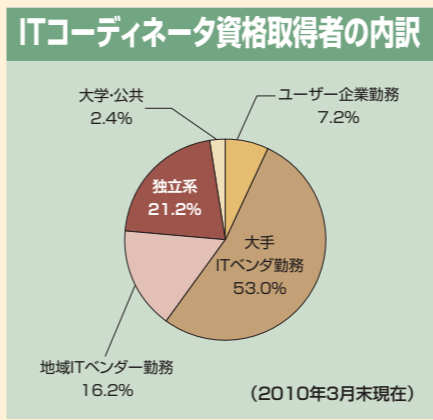
全国各地で名称が聞かれるようになったITコーディネータ。中小企業のIT化を支える専門家として発足し10年を過ぎた。最近の活動状況についてITコーディネータ協会に聞いた。

経営とITの橋渡しを行う専門家・ITコーディネータは、中小企業のIT利活用推進に欠かせない人材とされる。ITコーディネータの資格認定・育成・市場開拓を行っている特定非営利活動法人ITコーディネータ協会が発表する資料(2010年3月現在)によると、制度発足から10年が過ぎ、累計資格認定者は9000人を超えた。

Q約2割が独立系 企業を直接支援する

独立して活動しているITコーディネータ(以下ITC)は2割強であり、外部専門家として企業が直接支援を受けるITCの多くはこの「独立系」である。
ITCはIT導入のプロセスとして共通のプロセスガイドライン(P

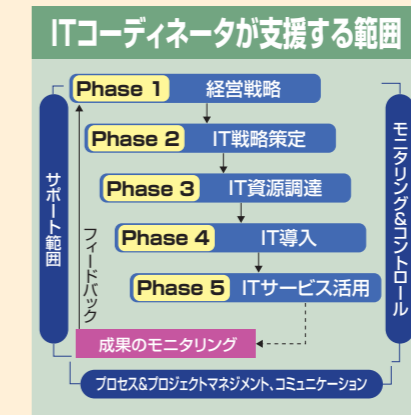
GL)を学んでおり、下図のような5つのフェーズに従って支援を行う。もちろん、5段階のうちの一部だけでも対応できる。ITコーディネータ協会が調査したところでは、すべてのプロセスを一通り支援するケースは約1割。「企業のニーズに応じてフェーズ別のサポートをしている」のが現状の姿だ。



Q地域の支援機関がITCと出会う入口

ITCは経営者の思いをきちんと理解したうえで、経営戦略を実現するためのIT活用を支援するのが特徴だ。まずは経営課題の分析から入り、ITで解決できる課題が見えたところでIT活用に踏み切るので「ITありき」の導入にはならない。

ITCに仕事を依頼する場合は、ITコーディネータ協会のホームページで条件に合ったITCを選び直接コンタクトをとることが可能だ。ただ、いきなり電話をかけるのはハードルが高いかもしれない。ITCは国の事業である経営者研修会や、支援機関で実施している専門家派遣制度などで活動していることが多い。こ



うした場を入口に接点を持つのがお勧めだ。地域によっては金融機関がITCを紹介してくれる場合もある。また、最近では、経営者間での紹介も増えているようだ。

上記の方法が使えない場合には、ITコーディネータ協会や「経営とIT化相談窓口」としてITCの紹介を行っているので、問い合わせしてみるとよいだろう。

利用企業からの「ロコミ」も増加 クラウド時代、役割はさらに広がる



ITコーディネータ協会事務局長
久保寺良之氏に聞く
(文中敬称略)

——最近の活動状況をどうぞ覧になっていますか。

久保寺 「独立系」ITコーディネータ(以下ITC)が支援している企業のデータを見ると、9割以上が年商50億円以下、いわゆる中堅中小企業です。業種も製造、サービス、卸売で約半数を占めますが、様々な業種に広がっています。

「中小企業IT経営力大賞2010」では、大賞受賞企業の半数、認定企業の約4割にITCが関与しており、成果が具体的に現れていると感じています。最近はその国の施策との連動もあり、農業、医療、自治体などの分野でも支援が増えつつあります。

——確かに県、市町村など自治体にお

いてシステム最適化やIT調達などでITCを採用する事例が出ていますね。

久保寺 地域において大きなITの予算を持っているのは自治体であり、需要も高まっています。ここで実績を出せば、ITCが地域で信頼を得ることにもつながるでしょう。

ただ、自治体には自治体の特性がありますので、協会では自治体ビジネスを進めるためのワーキンググループを作り、ニーズ把握や教育カリキュラム作成を行ってきました。全国でITC向けの研修会を開催しており、すでに300名ほどの受講者がいます。ITCはプロセスガイドラインという共通のスキルを持っています

が、これに加え、自治体、農業といった特定のお客様に役立つ能力を育成していくことも大切だと思っています。

——今後はクラウドコンピューティング・SaaSの利用が進むと言われています。システム構築の機会が減りそうですが、ITCの役割はどうなりますか。

久保寺 大きな流れとしては、会社の要望にピッタリ合ったオリジナルシステムを作ることから、サービスを組み合わせる最適なソリューション導入を図る方法へ移っていくでしょう。クラウド・SaaSのサポートはまさにITCの役目であり、今まで以上にITCの支援が必要になると考えています。

ただ、自前で作るシステムでもクラウドでも、ITは経営改革の手段であり、目的は「IT経営」の実践にあります。「IT経営」という言葉は定着してきた感があるものの、本当に実践している中堅中小企業はまだ少ないと認識しています。「IT経営」の実践により全国から優れた企業が多数出てくることを切に希望しています。

——IT経営の実現に役立つ専門家がITCというわけですね。ITCと出会う方法についてはいかがですか。

久保寺 ITCは地域の支援機関や国の事業などで活動していますので、その様子を実際に見ただけでは、その様子を実際に見ていただければと思います。ITC同士の横のネットワークを通じて要望に沿った人を見つけることもできます。また、最近では経営者から経営者へ「ロコミ」でITCのメリットが伝わり紹介を受けるケースも増加しています。ITCを実際に活用された経営者の方に直接話を聞いていただくのも良い方法だと思います。

ITコーディネータとともに、IT経営の実現を目指していきましょう。



お問い合わせ
特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会
電話:03-5733-8380
URL:http://www.itc.or.jp/